

ダイワ世界有力企業外債ファンド (為替ヘッジあり/部分為替ヘッジあり) 2016-10

運用報告書(全体版) 第19期

(決算日 2026年3月10日)

(作成対象期間 2025年9月11日~2026年3月10日)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信/海外/債券	
信託期間	2016年10月20日~2026年9月10日	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10の受益証券
	ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、世界の企業が発行する外貨建ての社債等に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先 (コールセンター)
TEL 0120-106212
(営業日の9:00~17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<3629>
<3630>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
	円	円	円	%	%	%	%	%
設定(2016年10月20日)	10,000	—	—	—	—	—	—	100.0
1期末(2017年3月10日)	9,316	80	△ 604	△ 6.0	△ 15.5	94.2	—	100.0
2期末(2017年9月11日)	9,756	80	520	5.6	△ 0.9	91.9	—	97.0
3期末(2018年3月12日)	9,207	60	△ 489	△ 5.0	△ 4.1	93.3	—	79.0
4期末(2018年9月10日)	9,093	35	△ 79	△ 0.9	△ 3.4	97.7	—	79.0
5期末(2019年3月11日)	9,315	10	232	2.6	△ 1.8	96.8	—	78.7
6期末(2019年9月10日)	9,988	10	683	7.3	0.9	98.7	—	75.8
7期末(2020年3月10日)	10,301	35	348	3.5	1.8	91.2	—	52.2
8期末(2020年9月10日)	10,585	110	394	3.8	2.6	98.3	—	22.8
9期末(2021年3月10日)	10,219	105	△ 261	△ 2.5	1.7	98.7	—	22.8
10期末(2021年9月10日)	10,302	115	198	1.9	1.9	97.7	—	22.8
11期末(2022年3月10日)	9,549	110	△ 643	△ 6.2	0.6	97.2	—	22.2
12期末(2022年9月12日)	8,906	55	△ 588	△ 6.2	△ 0.5	100.8	—	22.2
13期末(2023年3月10日)	8,637	0	△ 269	△ 3.0	△ 0.9	97.5	—	20.9
14期末(2023年9月11日)	8,538	0	△ 99	△ 1.1	△ 1.0	96.6	—	20.9
15期末(2024年3月11日)	8,619	0	81	0.9	△ 0.8	96.4	—	20.9
16期末(2024年9月10日)	8,656	0	37	0.4	△ 0.7	89.7	—	20.9
17期末(2025年3月10日)	8,556	0	△ 100	△ 1.2	△ 0.8	95.0	—	20.9
18期末(2025年9月10日)	8,570	0	14	0.2	△ 0.7	85.8	—	5.8
19期末(2026年3月10日)	8,565	0	△ 5	△ 0.1	△ 0.7	91.9	—	5.8

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

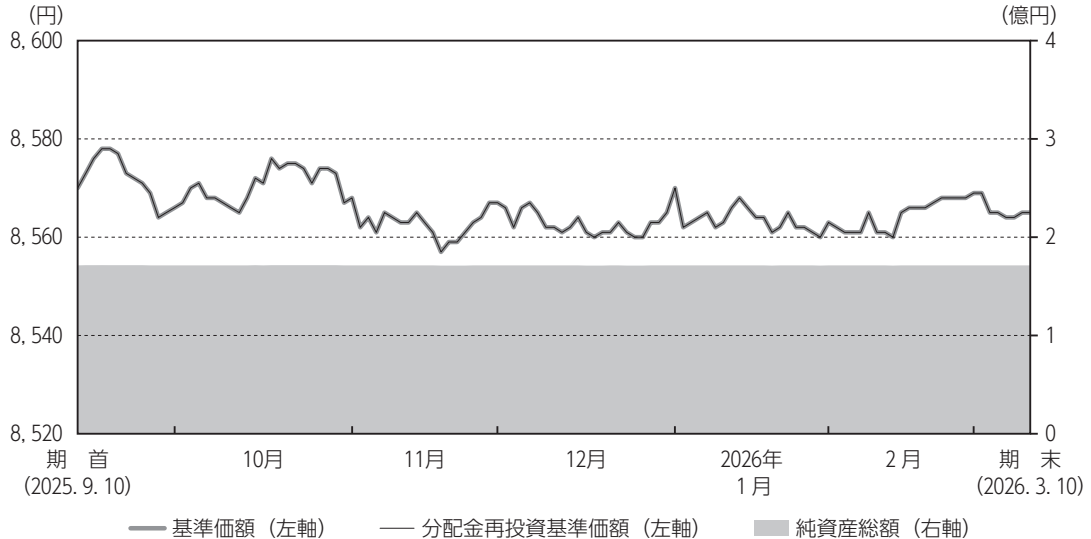
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

基準価額・騰落率

期首：8,570円

期末：8,565円（分配金0円）

騰落率：△0.1%（分配金込み）

基準価額の主な変動要因

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を通じて、主として世界の企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行った結果、保有債券からの利息収入などはプラス要因となりましたが、為替ヘッジコストなどがマイナス要因となり、基準価額は下落しました。

ダイワ世界有力企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2016-10

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首) 2025年 9月10日	円	8,570	—	85.8	—
9月末		8,566	△ 0.0	93.1	—
10月末		8,568	△ 0.0	93.6	—
11月末		8,567	△ 0.0	91.2	—
12月末		8,570	0.0	91.2	—
2026年 1月末		8,563	△ 0.1	89.6	—
2月末		8,569	△ 0.0	91.0	—
(期末) 2026年 3月10日		8,565	△ 0.1	91.9	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10)

■米国債券市況

米国国債金利・社債金利ともに短期中心に低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市場では、当作成期首より、労働市場の悪化懸念が強まり、利下げ期待が高まったことなどから、2025年10月中旬にかけて、金利は低下基調で推移しました。しかしその後は、F R B（米国連邦準備制度理事会）議長が次回利下げについて慎重な姿勢を明確に示したことなどから、11月中旬にかけて金利は上昇（債券価格は下落）しました。11月下旬には、F R B高官の発言などを受けて年内の利下げ観測が高まり、金利は再び低下に転じました。12月は、F R Bが利下げを決定し、さらに2026年の追加利下げを示唆したことなどから、短期年限の金利は低下しました。2026年1月は、グリーンランドの領有問題をめぐる欧米の対立やF R Bの独立性への懸念などから米ドル離れの思惑が再燃したこと、米国で底堅い経済指標を受けて当面の利下げ観測が後退したことなどから、金利は上昇しました。2月は、軟調な雇用指標などから労働市場の悪化懸念が再び強まり、金利は低下しました。当作成期末にかけては、中東情勢の悪化などから原油価格が急騰したことを受けてインフレ懸念が強まり、金利は上昇しました。

米ドル建社債については、当作成期首より、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）はおおむねレンジでの推移が継続しました。2025年11月には、ハイテク株の下落により投資家心理が悪化したことなどからスプレッドは拡大しましたが、その後は利下げ織り込みが進む中で投資家のリスク選好姿勢が強まり、スプレッドは縮小しました。2026年2月以降は、さまざまな業種でA I（人工知能）による企業業績の圧迫が懸念されたことなどから、スプレッドは拡大しました。当作成期を通してみると、スプレッドは拡大した一方で、国債金利の低下を背景として社債金利は低下する展開となりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

ポートフォリオについて

(2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10)

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期は、ヘッジコストの水準が高く収益性が低迷しているため、収益分配を見送らせていただきました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が1,908,186円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益1,908,186円（1万口当たり95.40円）が分配対象額となりますが、上記の理由により、分配を行っておりません。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2025. 9. 11~2026. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	23円	0. 272%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は8, 566円です。
(投 信 会 社)	(14)	(0. 164)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(8)	(0. 095)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	3	0. 037	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0. 033)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	27	0. 310	

(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

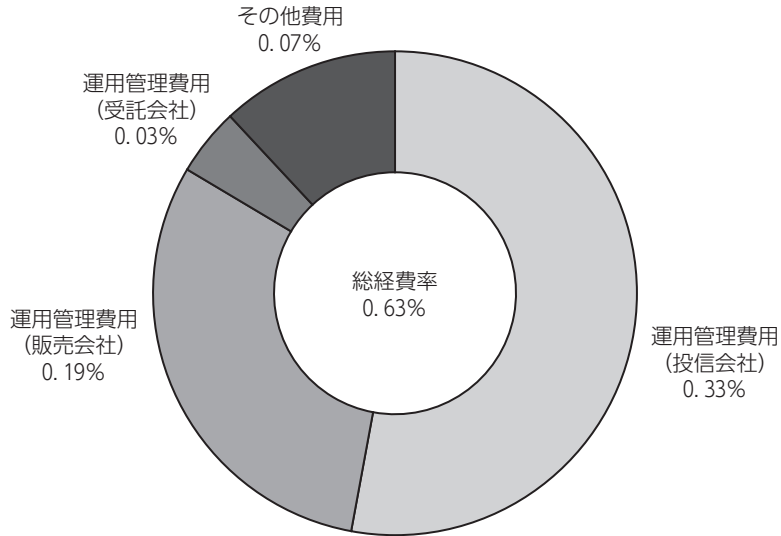
(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.63%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

ダイワ世界有力企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2016-10

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	—	—	6,903	13,200

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	□ 数	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	94,158	87,254	170,652	

(注) 単位未満は切捨て。

*同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	170,652	97.2
コール・ローン等、その他	4,932	2.8
投資信託財産総額	175,584	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝157.73円です。

(注3) ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10において、当期末における外貨建純資産(258,440千円)の投資信託財産総額(274,719千円)に対する比率は、94.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	335,015,512円
コール・ローン等	4,932,188
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10 (評価額)	170,652,759
未収入金	159,430,565
(B) 負債	163,720,038
未払金	163,245,958
未払信託報酬	467,202
その他未払費用	6,878
(C) 純資産総額 (A - B)	171,295,474
元本	200,000,000
次期繰越損益金	△ 28,704,526
(D) 受益権総口数	200,000,000口
1万口当り基準価額 (C / D)	8,565円

*当期末の計算口数当りの純資産額は8,565円です。

*当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は28,704,526円です。

■損益の状況

当 期 自 2025年9月11日 至 2026年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	4,458円
受取利息	4,458
(B) 有価証券売買損益	△ 8,242,820
売買益	5,452,950
売買損	△ 13,695,770
(C) 有価証券評価差損益	8,626,034
(D) 信託報酬等	△ 494,877
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	△ 107,205
(F) 前期繰越損益金	△ 28,597,321
(G) 合計 (E + F)	△ 28,704,526
次期繰越損益金 (G)	△ 28,704,526

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

部分為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利益回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
	円	円	円	%	%	%	%	%
設定(2016年10月20日)	10,000	—	—	—	—	—	—	100.0
1期末(2017年3月10日)	9,638	90	△ 272	△ 2.7	△ 7.0	95.3	—	100.0
2期末(2017年9月11日)	9,926	95	383	4.0	1.2	92.4	—	100.0
3期末(2018年3月12日)	9,337	80	△ 509	△ 5.1	△ 2.9	94.0	—	98.6
4期末(2018年9月10日)	9,332	65	60	0.6	△ 1.8	97.9	—	98.6
5期末(2019年3月11日)	9,575	45	288	3.1	△ 0.2	97.4	—	98.6
6期末(2019年9月10日)	10,184	45	654	6.8	2.1	98.5	—	98.6
7期末(2020年3月10日)	10,406	60	282	2.8	2.6	92.5	—	56.3
8期末(2020年9月10日)	10,801	115	510	4.9	3.6	98.3	—	56.3
9期末(2021年3月10日)	10,506	110	△ 185	△ 1.7	2.8	98.0	—	56.3
10期末(2021年9月10日)	10,636	115	245	2.3	3.0	98.2	—	56.3
11期末(2022年3月10日)	10,025	115	△ 496	△ 4.7	1.8	96.6	—	42.2
12期末(2022年9月12日)	9,986	75	36	0.4	1.7	99.9	—	42.2
13期末(2023年3月10日)	9,624	0	△ 362	△ 3.6	1.0	97.0	—	42.2
14期末(2023年9月11日)	9,834	0	210	2.2	1.2	96.2	—	42.2
15期末(2024年3月11日)	10,017	0	183	1.9	1.4	96.3	—	42.2
16期末(2024年9月10日)	10,084	0	67	0.7	1.4	90.5	—	28.1
17期末(2025年3月10日)	10,120	0	36	0.4	1.3	95.4	—	14.0
18期末(2025年9月10日)	10,204	0	84	0.8	1.4	85.9	—	14.0
19期末(2026年3月10日)	10,449	15	260	2.5	1.6	91.9	—	14.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,204円

期末：10,449円（分配金15円）

騰落率：2.5%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を通じて、主として世界の企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行った結果、保有債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首) 2025年 9月10日	円	10,204	%	85.9	%
9 月末		10,235	0.3	92.9	—
10 月末		10,355	1.5	92.3	—
11 月末		10,415	2.1	90.9	—
12 月末		10,425	2.2	90.9	—
2026年 1 月末		10,369	1.6	89.8	—
2 月末		10,427	2.2	90.7	—
(期末) 2026年 3月10日		10,464	2.5	91.9	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10)

■ 米国債券市況

米国国債金利・社債金利ともに短期中心に低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市場では、当作成期首より、労働市場の悪化懸念が強まり、利下げ期待が高まったことなどから、2025年10月中旬にかけて、金利は低下基調で推移しました。しかしその後は、F R B（米国連邦準備制度理事会）議長が次回利下げについて慎重な姿勢を明確に示したことなどから、11月中旬にかけて金利は上昇（債券価格は下落）しました。11月下旬には、F R B高官の発言などを受けて年内の利下げ観測が高まり、金利は再び低下に転じました。12月は、F R Bが利下げを決定し、さらに2026年の追加利下げを示唆したことなどから、短期年限の金利は低下しました。2026年1月は、グリーンランドの領有問題をめぐる欧米の対立やF R Bの独立性への懸念などから米ドル離れの思惑が再燃したこと、米国で底堅い経済指標を受けて当面の利下げ観測が後退したことなどから、金利は上昇しました。2月は、軟調な雇用指標などから労働市場の悪化懸念が再び強まり、金利は低下しました。当作成期末にかけては、中東情勢の悪化などから原油価格が急騰したことを受けてインフレ懸念が強まり、金利は上昇しました。

米ドル建社債については、当作成期首より、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）はおおむねレンジでの推移が継続しました。2025年11月には、ハイテク株の下落により投資家心理が悪化したことなどからスプレッドは拡大しましたが、その後は利下げ織り込みが進む中で投資家のリスク選好姿勢が強まり、スプレッドは縮小しました。2026年2月以降は、さまざまな業種でA I（人工知能）による企業業績の圧迫が懸念されたことなどから、スプレッドは拡大しました。当作成期を通してみると、スプレッドは拡大した一方で、国債金利の低下を背景として社債金利は低下する展開となりました。

■ 為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、おおむねレンジでの推移が継続しましたが、2025年10月から11月半ばにかけて、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月は、日本の衆議院解散による積極財政推進への思惑などから円安が進行する場面もありましたが、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測などを受けて、円高が進行しました。当作成期末にかけて、日本の衆議院議員選挙の結果や日米高官の発言などを背景に、米ドル円は変動の大きい展開となりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行います。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

ポートフォリオについて

(2025. 9. 11 ~ 2026. 3. 10)

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行いました。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記の通りです。
 収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程」をご参照ください。
 なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

1万口当り分配金（税込み）	15円
---------------	-----

■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額が4,641,873円であり、経費控除後の配当等収益1,138,432円を超過しているため、純資産額の元本超過額4,641,873円（1万口当たり464.18円）を分配対象額として、うち150,000円（1万口当たり15円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行います。

■ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2025. 9. 11~2026. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	28円	0. 273%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は10, 368円です。
(投 信 会 社)	(17)	(0. 164)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(10)	(0. 095)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0. 014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	5	0. 048	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(5)	(0. 044)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	33	0. 321	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

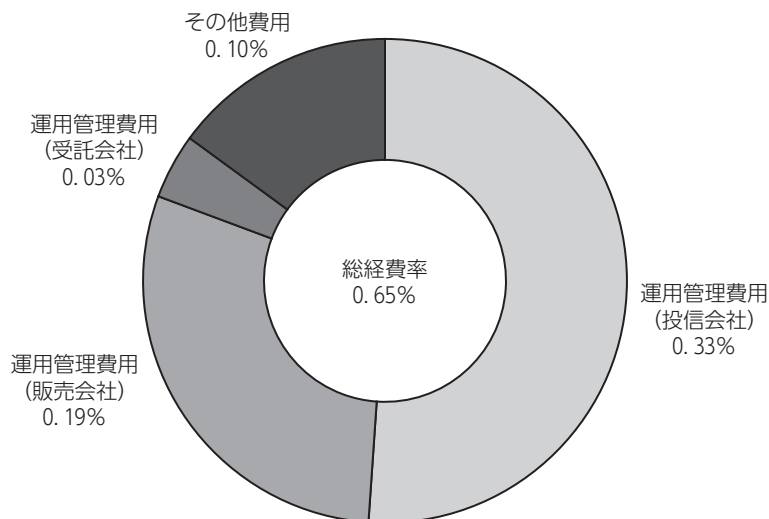
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は0.65%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	—	—	2,925	5,600

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	□ 数	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	56,133	53,207	104,064	

(注) 単位未満は切捨て。

*同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10	104,064	97.7
コール・ローン等、その他	2,416	2.3
投資信託財産総額	106,481	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝157.73円です。

(注3) ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10において、当期末における外貨建純資産(258,440千円)の投資信託財産総額(274,719千円)に対する比率は、94.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	172,079,294円
コール・ローン等	2,416,954
ダイワ世界有力企業外債 マザーファンド2016-10 (評価額)	104,064,120
未収入金	65,598,220
(B) 負債	67,587,421
未払金	67,150,561
未払収益分配金	150,000
未払信託報酬	282,697
その他未払費用	4,163
(C) 純資産総額 (A - B)	104,491,873
元本	100,000,000
次期繰越損益金	4,491,873
(D) 受益権総口数	100,000,000口
1万口当り基準価額 (C / D)	10,449円

*当期末の計算口数当りの純資産額は10,449円です。

■損益の状況

当期自 2025年9月11日 至 2026年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	2,154円
受取利息	2,154
(B) 有価証券売買損益	△ 3,092,641
売買益	2,448,292
売買損	△ 5,540,933
(C) 有価証券評価差損益	6,004,749
(D) 信託報酬等	△ 310,744
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	2,603,518
(F) 前期繰越損益金	2,038,355
(G) 合計 (E + F)	4,641,873
(H) 収益分配金	△ 150,000
次期繰越損益金 (G + H)	4,491,873

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は15ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	15円

ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016－10

運用報告書 第19期（決算日 2026年3月10日）

（作成対象期間 2025年9月11日～2026年3月10日）

ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016－10の運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行いません。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
株式組入制限	純資産総額の10%以下

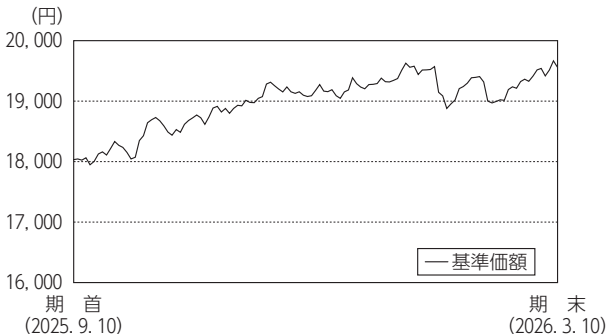
大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年月日	基準価額		公社債 組入比率	債券 先物比率
	円	%		
(期首) 2025年9月10日	18,033	—	86.6	—
9月末	18,235	1.1	92.9	—
10月末	18,886	4.7	90.2	—
11月末	19,234	6.7	90.0	—
12月末	19,290	7.0	90.7	—
2026年1月末	19,019	5.5	90.4	—
2月末	19,327	7.2	90.3	—
(期末) 2026年3月10日	19,558	8.5	92.3	—

- (注1) 騰落率は期首比。
- (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。
- (注3) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。
- (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：18,033円 期末：19,558円 騰落率：8.5%

【基準価額の主な変動要因】

主として世界の企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、円安米ドル高や保有債券からの利息収入などがプラス要因となり、基準価額は上昇しました。

◆投資環境について

○米国債券市況

米国国債金利・社債金利ともに短期中心に低下（債券価格は上昇）しました。

米国債券市場では、当作成期首より、労働市場の悪化懸念が強まり、利下げ期待が高まったことなどから、2025年10月中旬にかけて、金利は低下基調で推移しました。しかしその後は、F R B（米連邦準備制度理事会）議長が次回利下げについて慎重な姿勢を明確に示したことなどから、11月中旬にかけて金利は上昇（債券価格は下落）しました。11月下旬には、F R B高官の発言などを受けて年内の利下げ観測が高まり、金利は再び低下に転じました。12月は、F R Bが利下げを決定し、さらに2026年の追加利下げを示唆したことなどから、短期年限の金利は低下しました。2026年1月は、グリーンランドの領有問題をめぐる欧米の対立やF R Bの独立性への懸念などから米ドル離れの感が再燃したこと、米国で底堅い経済指標を受けて当面の利下げ観測が後退したことなどから、金利は上昇しました。2月は、軟調な雇用指標などから労働市場の悪化懸念が再び強まり、金利は低下しました。当作成期末にかけては、中東情勢の悪化などから原油価格が急騰したことを受けてインフレ懸念が強まり、金利は上昇しました。

米ドル建社債については、当作成期首より、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）はおおむねレンジでの推移が継続しました。2025年11月には、ハイテク株の下落により投資家心理が悪化したことなどからスプレッドは拡大しましたが、その後は利下げ織り込みが進む中で投資家のリスク選好姿勢が強まり、スプレッドは縮小しました。2026年2月以降は、さまざまな業種でA I（人工知能）による企業業績の圧迫が懸念されたことなどから、スプレッドは拡大しました。当作成期を通してみると、スプレッドは拡大した一方で、国債金利の低下を背景として社債金利は低下する展開となりました。

○為替相場

米ドル為替相場は対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場は、当作成期首より、おおむねレンジでの推移が継続しましたが、2025年10月から11月半ばにかけて、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年1月は、日本の衆議院解散による積極財政推進への懸念などから円安が進行する場面もありましたが、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測などを受けて、円高が進行しました。当作成期末にかけて、日本の衆議院議員選挙の結果や日米高官の発言などを背景に、米ドル円は変動の大きい展開となりました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

◆ポートフォリオについて

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として、世界の企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	4 (4)
合 計	4

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

外国	アメリカ	社債券	買付額	売付額
			千アメリカ・ドル 236	千アメリカ・ドル 59 (170)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子は含まれておりません)。

(注2) ()内は償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2025年9月11日から2026年3月10日まで)

買 付 銘 柄	当 期 金 額	期 付	
		銘 柄	金 額
NESTLE HOLDINGS INC. (アメリカ) 1.125% 2026/7/13	千円 23,634	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc (日本) 2.632% 2026/7/14	千円 1,551
Chevron Corp (アメリカ) 2.954% 2026/5/16	6,240	ASTRAZENECA PLC (イギリス) 3.375% 2025/11/16	1,539
Walt Disney Co/The (アメリカ) 1.85% 2026/7/30	6,187	BANK OF AMERICA CORP. (アメリカ) 3.5% 2026/4/19	1,536
		JPMorgan Chase & Co (アメリカ) 3.2% 2026/6/15	1,533
		Wells Fargo & Co (アメリカ) 3% 2026/4/22	1,532
		MORGAN STANLEY (アメリカ) 3.125% 2026/7/27	1,530

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)外国(外貨建)公社債(通貨別)

作 成 期	区 分	額 面 金 額	当 期			未			
			評 価 額		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
			外 貨 建 金 額	邦貨換算金額			5年以上	2年以上	2年未満
		千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ		1,610	1,606	253,447	92.3	—	7.1	—	85.2

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

ダイワ世界有力企業外債マザーファンド2016-10

(2)外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	当 期		末		償 還 年 月 日
				額 面 金 額	評 価 額			
					外 貨 建 金 額	千 円	邦 貨 換 算 金 額	
アメリカ	JPMorgan Chase & Co	社 債 券	3.2000	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円		2026/06/15
	Walt Disney Co/The	社 債 券	1.8500	170	169	26,764		2026/07/30
	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc	社 債 券	2.6320	140	138	21,913		2026/07/14
	Chevron Corp	社 債 券	2.9540	170	169	26,692		2026/05/16
	Amazon.com Inc	社 債 券	4.8000	140	139	22,040		2034/12/05
	NESTLE HOLDINGS INC.	社 債 券	1.1250	120	123	19,500		2026/07/13
	BANK OF AMERICA CORP.	社 債 券	1.1250	160	158	24,960		2026/04/19
	Wells Fargo & Co	社 債 券	3.5000	170	169	26,793		2026/04/22
	MORGAN STANLEY	社 債 券	3.0000	170	169	26,778		2026/07/27
	COMCAST CORP.	社 債 券	3.1250	170	169	26,749		2027/01/15
	UNILEVER CAPITAL CORP	社 債 券	2.3500	100	98	15,584		2026/07/28
				2.0000	100	99	15,668	
合 計	銘柄数	11銘柄						
	金 額			1,610	1,606	253,447		

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

* 同じ銘柄名が複数表示される場合、同一銘柄名であっても市場や通貨等が異なる場合があります。また、銘柄名称が長い場合、名称の一部が表記されない場合があります。

■投資信託財産の構成

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	千円 253,447	% 92.3
コール・ローン等、その他	21,272	7.7
投資信託財産総額	274,719	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝157.73円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(258,440千円)の投資信託財産総額(274,719千円)に対する比率は、94.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	274,719,600円
コール・ローン等	19,438,267
公社債 (評価額)	253,447,220
未収利息	1,753,004
前払費用	81,109
(B) 負債	—
(C) 純資産総額 (A - B)	274,719,600
元本	140,462,665
次期繰越損益金	134,256,935
(D) 受益権総口数	140,462,665口
1万口当り基準価額 (C / D)	19,558円

* 期首における元本額は150,292,128円、当作成期間中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は9,829,463円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額:

ダイワ世界有力企業外債ファンド (為替ヘッジあり) 2016-10 87,254,709円

ダイワ世界有力企業外債ファンド (部分為替ヘッジあり) 2016-10 53,207,956円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は19,558円です。

■損益の状況

当期 自 2025年9月11日 至 2026年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	3,921,686円
受取利息	3,921,686
(B) 有価証券売買損益	18,639,400
売買益	18,805,362
売買損	△ 165,962
(C) その他費用	△ 58,388
(D) 当期損益金 (A + B + C)	22,502,698
(E) 前期繰越損益金	120,724,774
(F) 解約差損益金	△ 8,970,537
(G) 合計 (D + E + F)	134,256,935
次期繰越損益金 (G)	134,256,935

(注) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。